

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
153	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳) :</b>	
The relationship between alcohol consumption and past-year smoking initiation in a sample of undergraduates. 学生における飲酒頻度と喫煙歴の関連について	
<b>執筆者 :</b>	
Reed MB, McCabe C, Lange JE, Clapp JD, Shillington AM.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日) :</b>	
Am J Drug Alcohol Abuse. 2010 Jul;36(4):202-7.	
<b>キーワード :</b>	
学生、飲酒習慣、喫煙習慣	
<b>要 旨</b>	
<b>目的 :</b> 実際、多くの若年者は18歳未満で喫煙を開始しているが、多くの既存の研究では、少数民族の大学生が大学時代に喫煙を開始することが示されている。また、大学生の飲酒習慣は喫煙習慣の開始と関連することが既存研究で明らかにされている。本研究では、大学生を対象としてこれまでの喫煙歴と飲酒頻度についての関連を検討する。	
<b>方法 :</b> 1523人の大学生を対象としてインターネットによる生活習慣および行動調査を行った。ロジステック回帰により、大学までの喫煙歴に対する飲酒頻度のオッズ比(OR)および95%信頼区間(95%CI)を算出した。人種、過去のマリファナ使用、違法/合法ドラッグの使用を調整因子とした。	
<b>結果 :</b> 対象者の9%はすでに喫煙を開始していた。これまでの飲酒頻度が多いほど、喫煙歴がある者の割合が高く、これまでの飲酒回数が0回、1-2回、3-5回、6-9回、10-19回、20-39回、40回以上の場合、喫煙歴がある者の割合は1.0%、3.9%、4.4%、4.3%、12.3%、18.6%、16.4%であった。これまでの飲酒回数による喫煙歴に対するOR(95%CI)は、飲酒歴の無い者を対照群とすると、 3.53(0.86-14.47), 4.5(1.09-18.52), 3.28(0.79-13.61), 9.07(2.53-32.51), 12.57(3.58-44.14), 9.96(2.80-35.46)であり、これまでの飲酒回数は喫煙歴と強い関連を認めた。	
<b>結論 :</b> 大学生を対象とした調査で、大学までの飲酒は喫煙歴と強い関連を認めた。これらの結果から、今後、飲酒と喫煙が関連する機序についてさらに検討する必要がある。	